

全国鉄筋継手業協同組合が ビジョンを策定

全国鉄筋継手業協同組合（宮田繁明理事長）では、平成26年度大阪府組合等事業向上支援事業「ビジョン・中期計画作成支援」を活用して、本ビジョン策定に至りました。

建設業界の現状と市場動向分析

ピーク時83兆円あった建設投資が平成23年度には41兆円台と半減した。平成25年度には東日本大震災の復興需要、公共事業投資などを追い風に50兆円近くに回復。今後、鉄道網や高速道などのインフラ整備が加速すると予想される。

一方で、東日本大震災の復興需要とインフラ整備が重なったため、建設業界は深刻な人手不足に陥っている。人材が不足した状態が続くと、工期の延長が予想され、建設会社のコストを圧迫する結果となる。

復興とインフラ整備を両立するためにも人材の確保が急務となっている。当組合に関連する鉄筋工を含む平成25年度の建設技能者は330万人ほどで10万～15万人位の人材が不足していると言われ、深刻な建設技能者不足に陥っている。

当組合の喫緊の課題とビジョン作成の経緯

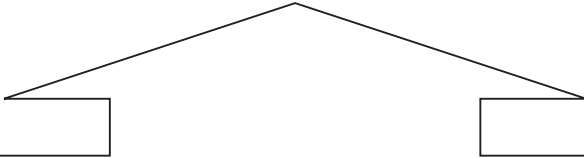
鉄筋継手には技能分野として、圧接、溶接並びにネジ継手の3分野があるが、当組合員は、圧接、溶接継手を主にしている。最近、簡便な工法であるネジ継手のシェアがゼネコン主体に伸びてきており、圧接・溶接継手の技術及び品質面での更なる向上とネジ継手への積極的な取組みによる「多能工化の推進」が喫緊の課題となっている。

こうした状況において当組合では、組合加入のメリット・サービス機能の一層の向上を図り、名実ともに全国規模のゆるぎない事業を推進し、日本の鉄筋継手業界、建設業界に多いに寄与すべく現状分析及び直近の経済環境分析を踏まえた組合ビジョンを作成した。

目標設定

「ブランド力の向上」を組合ビジョンとし、新たに注力する重点事業として次の2点を柱とする。

組合ビジョン～ブランド力の向上～

- 
- I 登録基幹技能者の講習登録機関への認定取得
 - II トレーサビリティソフトの開発を推進して実用化し、圧接・溶接・ネジ継手の信頼性向上をアピール
- ※トレーサビリティ：品質管理用語で作業工程の履歴の追跡を行えること

I 登録機関技能者の講習登録機関の認定取得

鉄筋継手には技能分野として圧接、溶接並びにネジ継手の3分野があるが、現在、登録基幹技能者の講習登録機関として国土交通省の認定を受けているのは全国圧接業協同組合連合会の圧接だけである。

当組合員は圧接・溶接継手工法を主力としているが、圧接・溶接・ネジ継手全ての鉄筋継手工法での登録基幹技士認定機関の認定を取得し、多能工化を図るとともにブランド力を高める。

この推進のためには、研修講師の選定、研修カリキュラムの作成等様々な要件を準備し、国土交通省へ申請する。

II トレーサビリティソフトの開発を推進して実用化し、圧接・溶接・ネジ継手の信頼性向上をアピールする。

本ソフトでは、施工記録報告書に記載する工事名称・工事期間・鉄筋継手工法種別・施工範囲・継手部検査方法・施工年月日・資格者名・資格番号・資格有効期限・受入検査結果・鉄筋径・数量等の入力を容易にし、且つ瞬時にアウトプットできる独自のソフトを開発する。

この実現により品質保証面で、これまで以上に圧接・溶接・ネジ継手が安心、安全な工法であることをアピールし、元請けからの信頼を獲得することにより組合員の受注確保に寄与することができる。

トレーサビリティソフトのイメージ図

